

行政視察報告

りと確保していく、そういった中で、できるだけコストを抑えながら、維持をする努力を続けている。

このたび国により示された給食費無償化とは、子育て世帯の経済的負担を軽減することを目的に、公立小学校の児童を対象として、全国一律、1人当たり月額5200円を

支給するというものであり、完全な無償化を前提とするものではないことから、宿毛市は本市独自の上乗せの支援を行うことにより、質も量も落とすことなく、安心安全な魅力ある学校給食の提供を行うことで、小学校給食費の完全無償化を実施していく。

総務文教常任委員会及び産業厚生常任委員会が先進地視察を実施しましたので、その概要を報告します。

【総務文教常任委員会】

日時 1月28日(水)

午後1時30分より

視察地 香川県綾川町

視察テーマ

「災害対策として停電対応型GHP(LPG)の導入について」

綾川町では町内の小中学校計6校の体育館への空調整備にあたり、熱中症対策に加え、避難所としての災害対策も重視して検討しました。動力源の比較において、特に災害時

されるものの、ガス式は年間を通して安定しています。機能面でも、ガス式はエンジン排熱を利用するため、冬場に霜取り運転で暖房が止まることがありません。

停電時の対応としても、ガス式は蓄電で起動しガスで空調を稼働できます。試算では中学校体育館で1日8時間使用した場合に3日間稼働でき、室外機の駆動により非常用コンセントも利用可能です。

以上の検討から、コストの安さと、停電時でも防災拠点としての機能を維持できる点を評価し、ガス方式を採用しました。

◎委員考察

視察後の委員からは近年の猛暑対策や天候に左右されない活動の確保など、教育環境の向上が急務である。快適で安全な学校生活を実現する手段として、災害時にも役立つGHP空調の導入は有効であり、早期の設置検討が求められるとの意見などがありました。

日時 1月29日(木)

午後1時30分より

視察地 徳島県海陽町

視察テーマ

「小中一貫教育、国際教育について」

海陽町では、過疎化が進む中で小規模校を維持しつつ教育の質を保証するため、小中一貫教育「チェーンスクール」を推進しています。教員間の相互参観や合同行事を通じて9年間の学びを接続し、きめ細かな指導と社会性の育成を図っています。

特筆すべきは国際教育で、ネイティブスタッフを中心としたオールイングリッシュ授業や、朝活動と連携した独自カリキュラムを展開しています。フォニックスや多読、ICT活用により実践的な英語力と異文化理解を深め、中学

生の英検取得率向上や学習意欲の高まりといった成果が出ています。また、地域人材や高校生と協働し、英語で地域課題に取り組む「グローバル学習」も実施しています。教員の負担軽減のため、教材共有やチーム制も導入されています。

運営面では、ふるさと納税やガバメントクラウドファンディング等の多様な財源を確保し、持続可能な体制を構築しています。保護者からの支持も高く、今後は幼児教育でのイマージョン教育導入など、幼保小中高の一貫性をさらに強化し、地域とともに子供を育てる「世界に通用する教育ブランド」の確立を目指しています。

